2026年2月

学校法人東放学園
東放学園高等専修学校 殿

2025年度 学校関係者評価報告書

東放学園高等専修学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【関連業界関係者】
青木　雅敬　　株式会社クリーク・アンド・リバー社　マーケティング・グループ シニアプロデューサー

【卒業生】
野口　詩央　　俳優　スペースクラフト・エージェンシー株式会社所属

【教育、学校運営に関し知見を有する者】
牧　義博　　株式会社学術企画　営業推進部 部長

2. 事務局

清水　大樹　　東放学園高等専修学校　校長
橋本　光一　　東放学園高等専修学校　教務教育部　部長
米倉　寿雄　　東放学園高等専修学校　学務管理部　部長
山田　未来　　東放学園高等専修学校　教務教育部　学科主任
近江　綾子　　東放学園高等専修学校　教務教育部　学科主任
田塚　友弘　　東放学園高等専修学校　学務管理部　業務主任

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

日時:2025年 9月25日(木) 14:00～16:00　意見交換会
場所:東放学園高等専修学校　5B教室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

別紙

東放学園高等専修学校　学校関係者評価結果

【評定の内容】
4 ： 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
3 ： ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2 ： 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1 ： 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

Ⅰ．重点目標について

重点目標1「データ分析等を活用し、広報活動の見直し、改善を行い、入学者55名以上を目指す」について

総　　評	評定
SNSの活用、中学校への訪問、合同相談会への参加など、複数の手段を組み合わせた広報活動を継続しており、取り組みの積極性は評価できる。 今後に向けては、受験生や保護者、中学校関係者に対し、貴校の特色や学びの内容、卒業後の進路などがより分かりやすく伝わるよう、Webサイトなどにおける情報発信の工夫、改善が課題として挙げられる。また、競合となり得る学校との違いを踏まえた情報提供や、対象とする層の分析に基づく発信内容の見直しに期待したい。 貴校の専門性の高いカリキュラムや学習環境の強みを、受験生だけでなく保護者にも伝わるように整理し、進路に関する情報の充実や卒業生の声の紹介などを通じて、芸術系進路に対する不安の軽減と理解促進につなげていくことが望ましい。さらに、「高等専修学校」の特長について丁寧に説明する情報発信を行うことが、学校理解の促進になると思う。	3

重点目標2「新たな成績評価基準を策定し、学習指導体制と学習評価の適正化を目指す」について

総　　評	評定
新たな成績評価基準の策定を進め、到達度をより明確に示すことで、客観性と公平性の高い評価体制の整備に取り組んでいる。学習評価の適正化に向け、検証や見直しを継続している点が評価できる。 今後の課題として、非常勤講師を含む教員間で評価基準の理解と運用を統一するための周知、共有の工夫が挙げられる。また、授業態度と能力などの評価の取り扱いは、教育活動の特性を踏まえつつ、教員間で共通理解を深めることが重要である。 評価は生徒、教員それぞれにとって重要な事項であるため、基準の細分化や数値化と合わせて、成績入力後の第三者による点検などを整えることが、評価の信頼性向上につながる。さらに、評価の可視化の取り組みを、広報や生徒の就職活動にも活用できるとよい。	4

重点目標3「入学から卒業までのDO率10％未満を目指し、目的のないフリーターを発生させない」について

総　　評	評定
在学中の支援および進路指導を通じて、生徒一人ひとりの将来に向き合う取り組みを継続している点が評価できる。進路形成における目的意識の醸成に向け、個々の学習支援やキャリア教育を継続的に行うことが重要であり、重点目標2と連動する形で推進することが望ましい。また、教職員が生徒を丁寧に見守り、日常的に関わる姿勢は、貴校の教育的特長として受験生・保護者への理解促進にもつなげることができる。 「目的のないフリーター」という状態は多様であり、状況を整理した上で卒業後のフォローアップにつなげることが有効である。卒業後のサポート体制については一定の評価があり、安心材料として適切に示していくことが望ましい。 また、DO率の低減に向けては、入学前段階で学校生活や学習内容などを丁寧に説明し、受験生本人の理解度と納得度を高め、入学後のミスマッチを抑えることが重要である。入学後に学習面や対人関係などで通学が困難となる場合も想定されるため、状況に応じた学習継続の仕組みや支援体制を整備し、学びの継続が途切れにくい環境づくりを進めることが望ましい。	4

Ⅱ．評価項目別取組状況について

基準1　教育理念・目的・育成人材像

総　　評	評定
教育理念や目的、育成人材像は明確であり、芸術、表現分野を通じた人材育成の方針が一貫している。 授業面では、オンライン学習等を含め、時代のニーズに沿った学習機会の提供が行われている。今後も、業界の動向や生徒の声を踏まえ、求められる人材像に対応したカリキュラムの継続的な検討、改善を行うことが必要である。 また、エンターテインメント業界は変化が大きいため、関連業界や卒業生などから得られる実践的な情報を教育内容に取り入れることが有効である。さらに、業界の研究や先輩の講話などの学びの一部を、入学希望者や保護者にも分かりやすく発信することで、学校理解の促進や情報提供につながると思う。	4

基準2　学校運営

総　　評	評定
学校全体での情報共有および意思決定が適切に行われている。また、情報システムの導入と運用、ならびに継続的な評価の見直しが進められており、学校運営におけるDX推進の取り組みも見られる。 意思決定の仕組みについても、会議体の整備などによって円滑に機能しており、スピード感をもって運営することが、生徒のニーズ変化などの対応において重要だと思う。 今後に向けては、5ヵ年事業計画等の中長期的な方針を踏まえつつ、計画の進行過程においても随時検証と修正を行い、実効性を高めていくことが望まれる。また、導入した各種仕組み、システムについて、現場での活用度をさらに高めていくことが課題である。	4

基準3　教育活動

総　　評	評定
専門教育が体系的に構成されており、教育内容の特色が明確である。特に、「学び→表現→就職」へとつながる一貫性が見られ、教育理念に沿った活動が展開されている。 また、成績評価の明確化により、生徒の授業への意欲が高まっている印象である。今後は生徒と業界で活動する講師や卒業生との対話やワークの機会を取り入れることで、カリキュラムに応用できると思う。 非芸術領域の資格取得については、生徒の意識醸成に課題があり、学習の動機づけを含めた働きかけが求められる。 また、進路目標が一律ではない生徒も多いことから、柔軟性を持った支援・指導体制の継続的な整備が重要である。 在校生による授業評価なども活用し、生徒のニーズを把握しながら改善を重ねていく取り組みが有効であり、継続することが望ましい。	4

基準4　学修成果

総　　評	評定
専門分野における就職実績やキャリア教育の成果が顕著であり、芸術、メディア業界で活躍する卒業生が多い。卒業生の活躍や社会的評価の高さが、学校のブランド向上にも寄与している。今後も、このような成果を分かりやすく示す「見える化」を継続することが重要である。 進路指導については、キャリアサポートセンターなどの専門的な部署と連携しながら支援が行われており、生徒のニーズに応じた取り組みが進められている。資格取得について明確な目標設定がない場合でも、必要性や有用性を伝えながら、適切な資格情報を紹介していくことが重要である。 また、従来はパソコンを必要としなかった分野でもデジタル活用が進んでいるため、在学中に取得できる検定、資格について、卒業生の実体験も踏まえながら情報提供を行うことが有効である。	4

基準5　学生支援

総　　評	評定
クラスアドバイザーと進路担当者の連携に加え、学園のキャリアサポートセンターとも連携しながら生徒支援を行っている点が評価できる。東放学園全体として支援の仕組みが整備され、適切に対応できている。 また、キャリアサポートが充実しており、卒業後の進路支援も積極的に行われている点が強みである。このような支援内容を入学前の段階から分かりやすく示すことで、生徒や保護者の不安軽減につながると思う。 今後は三者面談などによる定期的な状況把握に加え、日常的にも適宜情報共有ができる仕組みを充実させる必要がある。保護者層の変化も踏まえ、現在活用している連絡ツールアプリの機能、運用の見直しや活用促進を図ることが課題である。さらに卒業生への進路支援を含む支援体制は、生徒募集の観点からも適切に発信していくことが有効である。	4

基準6　教育環境

総　　評	評定
芸能活動などにより授業時間と重複が生じる場合でも、補講やレポート提出により学習機会を確保できる仕組みが整備されている。実際の活動が技能向上やキャリア形成につながりやすい分野であることを踏まえ、学びと活動の両立を支える柔軟な対応は有効であり、適切に運用されていることが評価できる。 また、校内のセキュリティ対策についても評価でき、今後も継続的な強化に努めてもらいたい。特に立地特性やイベント実施時などを踏まえ、防犯面において油断のない体制づくりを進めることが重要である。通用門の設置など、具体的な取り組みが行われていることが評価できる。 専門性の高い学びを支える教育環境を継続的に整備することが重要である。	4

基準7　学生の募集と受入れ

総　　評	評定
SNS活用を含む広報施策の強化など、募集活動において積極的な取り組みが見られる。一方で、入学者数の目標に対しては未達であり、重点目標に掲げるように、募集活動全体の見直しと改善が今後の課題である。入学選考および学納金に関する対応は適切に行われている。 今後に向けては、私立高校との併願を想定した情報提供の工夫や、学園としての認知度向上に向けた取り組みが重要である。多様な背景を持つ受験生への支援体制は安心材料となり得るが、通学制で学ぶ意義や本校の学習環境のメリットを、より前向きに伝える発信が望まれる。また、保護者が抱きやすい費用面の不安を軽減できるよう、分かりやすい情報提供と丁寧な説明を行うことが重要である。 さらに、広報面の改善に加え、就学支援金等を含む学費制度について、同系他校の動向も踏まえた情報収集と対応を進める必要がある。「高等専修学校」を進路の選択肢として理解しやすくするための差別化の工夫が求められる。	3

基準8　財務

総　　評	評定
財務は適切に管理・運用されている。事業計画に基づき、前年度との比較を行いながら運用状況を確認している点についても、適正に取り組めている。 今後に向けては、教育活動の充実に必要となる教材、機材などについて、生徒のニーズを踏まえつつ、財務上の制約の範囲内で可能な対応を検討し、教育環境の維持、向上につなげていくことが望まれる。	4

基準9　法令等の遵守

総　　評	評定
適正な学校運営体制が確立されており、法令遵守に対する意識も高い。専門知識を有する教職員が中心となって運営していることも好印象であり、現行の体制を継続していくことが望ましい。 近年は生徒の写真撮影などに関わる肖像権をはじめ、個人情報保護や著作権に関するトラブルが増えている。これらは運営側の管理に限らず、生徒自身にも関わる事項であるため、ルールや留意点を周知するだけでなく、教育活動の一環として継続的に取り扱い、理解を深める取り組みが重要である。	4

基準10 社会貢献・地域貢献

総　　評	評定
地域や近隣学校との連携に加え、業界関係者との連携も図られており、社会貢献や地域貢献の観点で適切に取り組んでいる。 今後に向けては、ボランティア活動を継続し、校内外での活動を通じて、生徒が責任感や貢献意識を育めるよう工夫することが望ましい。系列校との交流やクラブ活動を通じて、活動の幅を広げてもらいたい。 また、近隣の中学校との部活動コラボ（在校生が指導）などを働きかけることで、部活動顧問の負担軽減に貢献できると思う。このような機会を通じて生徒の意欲向上につながり、中学校への「東放学園高等専修学校」の認知度向上にもなると考えられる。	4

所感

学校全体で教育理念の明確化と継続的改善の姿勢が定着しており、各基準・重点目標に沿った取り組みが着実に進んでいる。貴校が今までに築いてきた業界からの信頼と、卒業生とのネットワークという強みを活かし、即デビューに至らない生徒や進路が途中で変わる生徒に対しても、学園全体で寄り添いながら将来を支えていく体制を、引き続き充実させてもらいたい。このような具体的な取り組みを、入学検討者・保護者・中学校関係者へ継続的に発信することが、学校理解の促進と入学者増につながると考えられる。

時代のニーズに合ったアプローチをどのくらい実行できるかが重要であり、特に広報の強化を優先的に進めることが大切だと感じた。SNSは認知拡大に有効だが、受け止められ方によってはリスクもあるため、ターゲット層を細分化して、印象の良いアピールにつなげてもらいたい。また、卒業生が中学生や在校生の架け橋となるような取り組みや、学校提携による外部コミュニティとの交流機会が広がれば、より視野の広い人材育成につながる可能性がある。卒業後も丁寧に支援が続く環境は貴重であり、その価値を実感するとともに、委員としても何らかの形で貢献したいと思った。

貴校との長年の関わりの中で、入学担当以外の教職員からも話を聞く有意義な機会であった。貴校の大きな強みは教職員や生徒の人柄であり、必ず笑顔で挨拶をして来客を優先する意識など、日常の対応に表れる「心地よさ」は非常に高い水準にあると感じる。少子化や教育の多様化により生徒募集が難しくなる中、学校の雰囲気という強みは一層重要になる。また、芸術系に特化した専門性の高い教育プログラムを備えているため、「高等専修学校」の特長と合わせて分かりやすく発信できれば、一定のニーズに応えられると思う。今後も有益な情報があれば適宜共有していきたい。